

山行報告

■黒鉄山と百聞岳

- 日 程：11月10日(水)
- 参加者：L島谷 SL安田 小田 笹木 徳本 野村 橋本(万) 春本 平井
- 行動記録：(湯ノ内地区)登山口 9:40 発～笹谷分岐(10:37 着)10:40 発～黒鉄山(10:50 着)10:55 発～百聞岳(11:35 着)12:10 発～黒鉄山(12:55 着)13:00 発～笹谷分岐(13:08 着)～登山口(13:50 着)

◆西播磨山城 黒鉄山・百聞岳

橋本(万)

本日の山行は車2台の乗り合わせで、赤穂市最高峰の2山踏破です。車を停めた場所は目と鼻の先を新幹線が通るといふ山道の脇でした。準備体操をしていても振動で身体が揺れるほどの近さです。イノシシ柵を開け登山道に入っていくと、ヘビに会いムカデをまたいでシダの藪漕ぎが続き探検隊のようでした。湯ノ内登山口から笹谷分岐までは、幾度かの大霧にあった形跡があり、荒れたガレ場続きの困難な道なき道でした。笹谷分岐まで出てくるとそこからは踏みしめられた山道が出てきてほっとしたのも束の間、シダが生い茂り始め何度か山アプリで確かめながら道を進みました。途中には樹齢何〇年だろうという10いくつに幹分かれた大木にも会いました。黒鉄山山頂には鉄板で作られた見晴らし台が設置されており、その上に上がると自然にバンザイがしたくなるほどの見晴らしでした。眼前に海に浮かぶ小豆島、向こうに四国、海上には大きな雲の影…しばしうっとり…でした。

次に向かう赤穂市最高峰の百聞岳をめざして谷を下りまた上り、シダに巻かれた道を進みました。分岐が多く「皆で覚えておこうな」と声かけしながら歩きました。ひょこんとケルンが出てきて百聞岳山頂に到着。百聞岳でなく『百間岳』と記されていました。百聞岳からは前方に小豆島、四国、下方に赤穂海浜公園、後方には上郡、佐用の山々、奥には氷ノ山も見えていたのかしら。昼食を済ませてピストン下山しかけると道が…左?右?もっと右?もっと左?如何に皆がうろ覚えだったか!例の大木辺りまで戻ってくると藪漕ぎも楽しい「裏山探検隊みたい!」とハイな気分になっていました。



笹谷分岐からまたあのガレ場下りが始まる。誰もが無口になり気を引き締めてザクッザクッ

と足を運ぶ。帰りに立ち寄るつもりだった鍋森神社の御神体も拝せず下りてしまった。やっと新幹線のゴー音が聴ける地点へと戻ってこれ、雨にもあわず怪我もせず和気あいあい下山できた事に感謝です。おまけの「日生五味の市」までのトイレ借用兼買い物ツアーにも連れていってもらい、リーダーはじめ仲間の皆さん、ありがとうございました。

■妙見山（692.4m）多可町

- 日 程：11月14日(日)
- 参加者：AL 瀧原 ASL 砂川(延) 小田 笹木 徳本 西川 松本(聡) 森下 山下
BL 藤原(千) BSL 春本 生永 黒本 佐野 福原 松下 矢根 吉村
- 行動記録：那珂ふれあい館 9:30 発～東山登山口(9:45 着)～あまんじゃこの忘れ石 10:45～展望地(10:55 着)11:00 発～妙見山頂上(11:25 着)12:05 発～東山登山口 13:15～那珂ふれあい館(13:30 着)

◆久しぶりの山行 妙見山に登る

森下

秋の一日、近隣の妙見山三山（能勢・但馬・多可）の一つ、多可町の妙見山(692.4m)の山行です。ちなみに私は今日の山行で三山すべて登りました。

各地から5台の車に分乗して那珂ふれあい館に9時30分集合です。多可町の妙見山は火山活動により形成された山だそうで「妙見富士」とも呼ばれている美しい山です。

駐車場前の広場でストレッチ、右手にまわると東山古墳群や桜の木が30本程植生された横を（春にはきっと美しい場所だなあと思いながら）通りすぎ、熊よけのしっかりした扉を押し開け東山登山口から登り始めます。

登山道は幅広く整備されていて、ゆったりと登ることが出来ました。ただ結構な急登で、大小の石ころで今の時期落ち葉も多くすべりやすかったです。紅葉はところどころにもみじが一本真っ赤に色づいていますが、他の木々はこれからでしょうか。途中「あまんじゃこの忘れ石」という看板がありました。これはなんじ

ゃと思っていたら、夜の中に笠形山と妙見山に橋をかけようと石を積み上げた大男の、あまんじゃこ伝説があったということでした。

ここからさらに登り、619mのピークで視界が開け、集落や田んぼが美しく点在しています。少し霧がかかり遠くの山々はかすんでいましたが、一息つくことが出来ました。後は山頂まで一気に登り、692.4mの山頂で三角点にタッチ記念写真・お弁当休息、山頂は案外狭くでも展



望が広がり美しかったです。

後は来た道をピストンで下山し、那珂ふれあい館横の兵庫県文化財に指定されている東山古墳群も見学しました。立派なパンフレットを頂き、それによると東山古墳群は16基の古墳が有り、古墳時代の終わり頃(約1450年～1400年前)に作られ、東山1号墳の横穴式石室はここで最も大きく、兵庫県内でも最大級の大きさだそうです。社会科の勉強もして有意義な一日となりました。

リーダー様そして車を出してくださった方々、皆様お世話になりました。

■高御位山らくだコース(前半)

●日 程：11月21日(日)

●参加者：L藤本 SL森本 生永 小田 兼澤 佐野 西川 西脇 春本 福原 矢根 山本(清)

●行動記録：市ノ池第3駐車場 9:00 発～中所登山口 9:20～大平山 9:55～地徳山(10:05着)10:10 発～百間岩 10:45～別所中池(11:30着)12:05 発～桶居縦走路 13:20～桶居分岐 14:30～鷹ノ巣山(14:40着)14:45 発～市ノ池公園(15:15着)

◆高御位山らくだコース(前半)に挑戦

福原

この日は風もなく、小春日和の気持ちの良いお天気でした。

距離12km、歩行時間7時間、昇降量1,300mと私にとっては無謀な挑戦となりました。

初めて登る中所登山口から大平山を上る最中から汗が吹き出てとても暑かったです。

それから地徳山、いつもの百間岩まで来ました。百間岩はいつも下るばかりでしたが何とか登り切りホッとしたのも束の間、別所中池まで急降下。

下りてから皆さんはジオグラフィカにらくだの口を辿るために移動しましたが、私はヘトヘトでお昼休憩の場所でヘタってしまいました。

この後、食事を終え桶居縦走路まで身体が重く登るのはキツかったです。

桶居縦走路まで登ると眼下には緑と黄と橙色のグラデーションがとても綺麗でした。ここまで登ってこないと味わえない景色だな～と感動しました。

後は、桶居分岐から馬の背を下ると終了だ、頑張ったな～と思いながら歩いていました。予定時間より約1時間早く下山しました。驚きと共にホッとした思いでした。

私は、今年の1月3日の新春トレで桶居山を降る途中で膝が痛くなり、別所中池でリタイアしたので少し心配していたのですが、無事に完登できたことで次の目標への自信となりました。



■山神社ロープワーク

<アルプ>

- 日 程：11月21日(日)
- 参加者：L竹内 SL松下 尾内 黒本 砂川(延) 土井 福田 三木(悦)
- 行動記録：別所中池 9:10～山神社(9:25 着)9:30 発～山神社ゲレンデ(9:45 着)14:40 発～山神社(14:50 着)14:55 発～別所中池(15:10 着)

◆はじめてのロープワーク

土井

山神社の公園でストレッチをして、いよいよ岩場に向かいました。初めてのロッククライミング、そして、アルプの山行に参加するのも実は初めてです。20分程ほど登って目的地の岩場に着きました。「え？垂直やん？」と少し不安になりましたが、登ったら楽しそうと思いました。

早速ヘルメットをかぶり、ハーネスも生まれて初めて装着しました。そして、スリングをハーネスに繋いでカラビナも付けて準備完了です。恰好だけはそれっぽく「はい、ロッククライミングやっています」な感じになって気分も上がりました。でも、実は道具を持っていなくてヘルメットもハーネスもカラビナも数が足りなくて全部メンバーの皆様にお借りしました。

最初にまずロープでエイトノットの結び方を練習しました。学習会B班の時にたぶん練習したはずですが全然おぼえていなくて一から教わりました。次に懸垂下降するのに必要なムンターヒッチの練習をして何とかできるようになりました。

その間に安全確保のロープも準備してくださっていよいよ順番に岩を登ります。まず、1本目は途中の高さまで、2本目と3本目は上まで登りました。



登るときはちょっとした岩の凸凹を利用して、手や足を引っかけて登るのですが、本当にここに足をかけても大丈夫かなとか指が外れたりしないかなとか考えてなかなか難しかったです。また、上まで登ってまず自己確保してから、ムンターヒッチでカラビナとロープを結ぶのですが、下で練習したはずなのになかなかうまく結べませんでした。何とか結べてから「あ、私左利きです」となってもう一度やり直したのですが、向きが変わるとまたわからなくなってしまって、竹内さんに手伝ってもらって何とか結べました。懸垂下降は思っていたより怖くありませんでした。

今回はじめてロッククライミングの練習をしたのですが、とても楽しかったのもっと練習してみたいと思いました。

リーダーさんをはじめ一緒に練習したメンバーの皆様、そして道具を貸してくださった皆様、楽しい時間をありがとうございました。



■裏六甲・大池地獄谷

●日 程：11月23日(火・祝)

●参加者：L三木(悦) SL竹内 天野 尾越 兼澤 黒本 田羅間 徳本 野村 春本

●行動記録：神鉄大池駅9:00発～登山口9:20着(9:30発)～地獄谷西尾根分岐(9:50着)

9:55発～第4堰堤10:10～ダイヤモンドポイント(11:50着・昼食)12:30発～水晶山(12:45着)12:50発～地獄谷西尾根分岐(13:20着)13:30発～登山口(13:45着)13:55発～神鉄大池駅(14:10着)

◆大池地獄谷・水晶山 ～私的な感想文～

兼澤

ダイヤモンドポイントという展望がきく所で昼食。そこを出発する時、リーダーが何人かのメンバーに「私たちは、今から、どの方向に下山したら良いでしょうか？」と問いかけられた。メンバーがどの様に答えられたか定かではないが、「山では、自分の現在地や進行方向を常に把握しておかなければ、命取りになる」ことを確認された重要な質問だったと思っている。

私は、「渡渉」が大の苦手、嫌いだ。

今日は、嫌いなその「渡渉」三昧だった。沢を右に左に、十数回繰り返した。正に「地獄(谷)道」そのものだった。

「ゆく河の流れは絶えずして、しかも、もとの水にあらず。」先人の人生訓など、考える余裕もなく・・・右足をあの石に、左足は傾いているがあの石に、次の右足は、どこへ？・・・。ほんとうに身も心も疲れた。ただ、前日の大雨にもかかわらず、水は澄み、水かさも上がってなかったのは幸いだった、地獄に仏。

晩秋の水晶山、落葉が登山道を包み隠していた。

「木々は、葉を落とすことで栄養の消費を抑え、来年へ生き残りを図り、葉はその木々の栄養となる」らしい。自然の摂理はうまく出来ている。

しかし、急な下り坂が続く山道を歩く私には、落葉は悪魔。落葉に隠された石や根っこにつまずいたり、滑ったりで、ほんとうに歩きづらかった。

朝、計画どおりに登山開始、このややこしいコースをクリアし、計画どおりに下山。

リーダーのすばらしい指導力・判断力に敬意をささげる。また、メンバー一人ひとりが自覚を持った行動し、全員、安全に下山出来たことは「高御位山遊会のチーム力」と、誇らしく、満足感いっぱい終わった山行だった。



【リーダーコメント】山行前日が雨の為、沢の増水が心配だった。SLと相談して途中撤退も念頭に出発した。さらに登山道には危険マークがある情報も不安だったが、兼澤さんも言われる様にメンバー一人ひとりの自覚をもった行動に心強く感じながら先頭を歩かせてもらいました。皆さんご協力ありがとうございました。

■秋の明神山

＜女性委員会＞

- 日 程：11月25日(木)
- 参加者：L安田 SL木村 小田 垣内 黒本 澤田(律) 島谷 立花
- 行動記録：明神山駐車場 9:10～登山口 9:15～くじら岩 10:05～地藏岳(10:40 着)10:45 発～明神山頂上(11:15 着)11:50 発～AB 分岐点 12:15～西の丸(12:55 着)13:00 発～登山口(13:40 着)

◆播磨の名山、明神山(668m)に登る

澤田(律)

明神山は地図で見ると北に雪彦山、南に書写山のほぼ中間、東に七種山、さらに東にやしろ鴨川の郷等ある線上に位置する。播磨富士とも呼ばれている。

自宅からは車で約50分程かかる距離にあり今までに1回登ったことがある。明神山は山頂から360度眺望が楽しめる。他には「山ひる」の多いことでも知られる。

前は6月に登山したが歩いている途中から前に行く人のザックやズボンに「山ひる」がくっついてくる、昼食中にも「山ひる」がいつのまにか近くに忍び寄ってくる有様だったので、明神山から足が遠のいていたが今回は11月ということもあり「山ひる」はないとの情報を得て参加を決めた。

今回は比較的多くの方が登るというCコースを登り、Aコースを下山した。天気は朝から快晴で登山日和であった。



この日は年間300日以上も明神山に登っているという人がガイド役を務めてくださった。登山途中にある危険箇所の注意点、展望台での山容の説明、紅葉スポットの場所、岩名の由来等々詳細な説明を受けながら歩いた。

Cコースには急坂に加えて多くの岩場の他、木の根っこが縦横無尽にはっている上に落ち葉の下には砂利があり滑りやすい。途中には屏風岩・観音岩・合掌岩・八丁坂などがある。それぞれの岩場は眺望もよく付近の山容や町を眺められた。山は紅葉も深まり赤や黄色、緑など色とりどりであり、特に陽がさした際は輝きも増し美しかった。

明神山の山頂は大きな岩や小さな石があり休憩場所には困らない。山頂から眺めた七種槍は尖った山容なので見分けがつきやすかった。さらに遠くに高御位山が見え眺望を楽しめた。

登山道は急坂が多く登り下り共に危険箇所が多い。危険箇所にはロープや鎖が設置されており心強かった。これらロープや鎖は地域の登山愛好家グループにより整備されているという。

大きな岩には足の置き場も作ってあった。これらの設置や手入れのお陰で、多くの方が安全に登山できていると考える。危険箇所でのこれら作業には危険も伴い苦勞も多い事だろう。

日本の多くの山では山を愛する人々の手により、登山道の整備、ゴミ拾いが実施され安全に登れる山が維持できていると考える。今後も感謝しながら登りたい。

安田Lはじめ参加者の皆様にはお世話になりありがとうございました。

■有馬富士周回

<ゆっくりリズム>

- 日 程：11月28日(日)
- 参加者：L藤原(千) SL橋本(万) 生永 河合 佐野 福原
- 行動記録：新三田駅 9:30 発～有馬富士公園 P(10:00 着)10:15 発～登山口(10:40 着)～有馬富士山頂(11:20 着)11:55 発～共生センター(12:50 着)13:04 発～青野ダムサイド公園(13:55 着)14:28 発～広野駅(15:00 着)

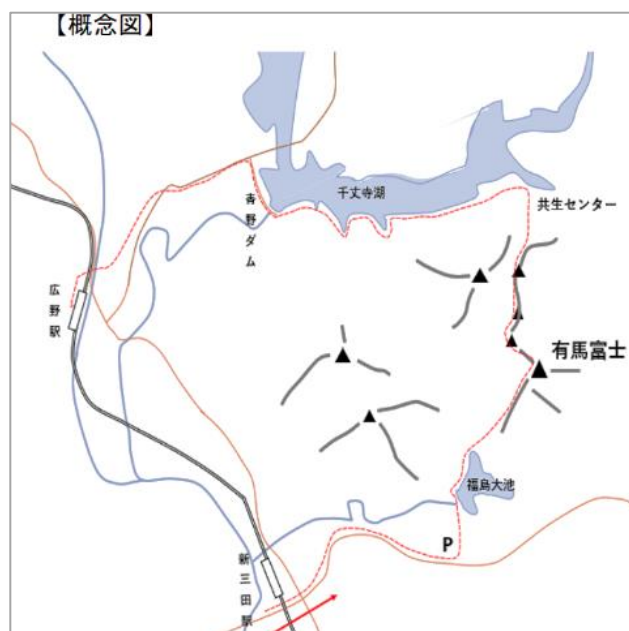
◆晩秋の有馬富士を登り湖畔を散策

河合

福知山線の新三田駅を9時半出発、北摂里山街道に沿って有馬富士公園に向かう。今日は登山日和、広大な敷地では紅葉した樹林が迎えてくれる。ストレッチを済ませ福島大池を見ながら歩き始める、彼方の有馬富士がすっぽり収まる丸くくり抜いた写真スポットで皆さんと収まる。落葉を踏み登山道を登っていると、これから先はストックをしまうようにリーダーが言われる。突如、前に急登の岩場 “え！”と思ったが登るしかない、三点確保を唱えながら励ます。着いた頂上は各コースが集約し、家族連れで賑やかです。



有馬富士山頂からの展望は素晴らしい。六甲山系を背に光輝くメタセコイヤの樹林がゴルフ場を引き立て、近景の池や里山は黄金に染められ只々見とれてしまう。昼食後のレモンスカッシュ



に元気もらい12時出発。下山道も急な岩場が続き持つ手がかりがなく気が張る。有馬富士を背にアップダウンの階段を繰り返し、尾根ルートを下ると大芝生広場に着く。風を感じる癒しの空間は去りがたいが次の青野ダムを目指し千丈寺湖畔を巡る。多くの釣船が出ている。種々の落葉で敷き詰められた遊歩道が終わり、やっと青野ダムサイド公園に着く。温かいコーヒーのサービスに和み、終着の広野駅3時に着く。

帰路“うわのそら”のギャラリーを見つけびっくりした。

思い出がいっぱいの場所・・・思いがけない山行でした。有難うございます。

■高御位山らくだコース（後半）

●日 程：11月28日(日)

●参加者：L藤本 SL森本 尾内 小田 兼澤 徳本 橋本(健) 春本 松本(聡) 矢根 山本(清)

●行動記録：市ノ池公園 8:50 発～縦走尾根(9:35 着)9:40 発～長尾(10:25 着)～長尾鉄塔
(10:40 着)10:50 発～高御位山(11:20 着)11:50 発～西山(12:25 着)～中塚山
(13:10 着)13:15 発～北山登山口(13:50 着)13:50 発～市ノ池第3駐車場(14:20 着)



【らくだコース後半・赤実線】

◆らくだの尻尾

松本(聡)

前日までの天気予報では冷え込むと言っていましたが、当日はすっきりと晴れ、山行には絶好の気温でした。寒がりの私は何枚も重ね着をしていたので、途中で2枚も脱ぐことになりました。

「初めての山歩き教室」に申し込もうと思ったきっかけは、友人と高御位山に登りたいねと話していたことが発端でした。「教室」では一度登りましたが、友人との約束はまだ実現できていません。それまでにいろんなルートを知っておきたくて今回の「らくだコース 後半」に参加しました。

送信されてきた地形図を見て、随分登ったり下ったりするんだなとしか思っていないでし

た。まさか二度もいったん山を下りてしまうなんて考えてもいませんでした。

前方に高御位山の頂上が見えたところで下りはじめ、長尾の集落へ降りてきた時には頭の中は「?マーク」でいっぱいでした。少し住宅地の中を歩き、再び登り始めた時に「私は、またとんでもない山行に申し込んでしまったのだな」と思い知りました。

それでも少しは慣れてきたのか、山頂までは快調に登ることができ、頂上で昼食をとる時には、以前より

周りの風景を楽しむ余裕がありました。集合写真を撮ろうとしていると、近くにいた若い女性が私たちに手を振ってくれたので、思わずみんな笑顔になりました。

後は下ってらくだのコブ・おしり・尻尾そして後ろ脚を描いていきます。しかしこの尻尾が曲者でした。当初リーダーの方が「尻尾は厳しいので、下りない人は上で待っていて良いですよ」と言って下さったので、私は、当然上で待つつもりでいたのですが、私以外の方は全員降りられると言うし、「ラクダの尻尾は大切よ」の言葉に押され、降りることになりました。普段人が通ってないようで、山笹(草木の名前がよくわからないので違っているかもしれません)が生い茂り、足元が良く見えない道を下り、また引き返してもと居た山道まで戻ってきた時には、私ひとり崩れるように座り込んでしまいました。そして笑いが止まらず(私は追いつめられると笑うタイプみたいですが)、笑い過ぎて涙が流れてきました。皆さんに「よく頑張った」と言って頂きましたが、平然とされているご様子に、やはり鍛え方が違うなあと感心しきりでした。

難所を終えた後は、北山へ向かって歩き、北山登山口へと降りて行きました。この道はとても気持ちよく歩けたので、今度この山だけでもいいので歩いてみたいと思いました。

らくだの脚を描くため住宅地の中を歩き、ゴールである駐車場へ到着後、ストレッチをして解散となりました。

毎回思うことは、皆さんの健脚ぶりと自分の不甲斐なさです。きっと皆さんと比べると、私

は年齢的には若い方なのだろうけれど、体力、気力の若さは、みなさんの方が数倍あると思います。何年か後には私もあんな風になっていたと思います。



■高森ボランティア活動

- 日 程：11月20日(土)
- 参加者：生永 内海 砂川(延) 荘所 須増 春本 藤原(千) 三木(悦) 森下 森本 和田
- 作業場所：市ノ池公園キャンプ場裏から尾根に至る登山道の整備
- 作業内容：登山道の草刈りと登山道の整備作業
- 作業時間：9:00～10:30

報告：荘所

市ノ池公園キャンプ場裏から高御位山の縦走路へ上がる尾根（鉄塔の下）に合流するルートまでの間を作業区間として、登山道を覆う草刈りと、雨水が登山道を侵食している箇所を整備し、雨水の流れを変えることで侵食から登山道を守れるよう作業を行った。

キャンプ場の裏から登山口迄の通路が雨による浸食で、登山道が深く掘れてしまい、大きな溝ができている箇所や、木枠で作られた階段の土が流れてしまい、木枠がむき出しになっている箇所があったりして、我々の手作業では手当てできない箇所が何カ所もある。

登山口から尾根までの急登箇所も土が流れて溝になったり、そのために歩きにくくなったところは、道幅が広がったり、別のルートが側にできたりして登山道の崩壊が進んでいる。

これらの箇所については専門の土木工事が必要で県の森林課への要請することが求められる状況である。



【11月参加者】



【浸食箇所整備作業】